

たまのよこやま

特集

「溜池遺跡にみる江戸・東京」

溜池遺跡にみる江戸・東京

特集にあたって

これまで当センターでは都心部の再開発に伴う埋蔵文化財調査を行ってきました。平成18(2006)年から、国会議事堂の西側にある衆議院第一議員会館

の建替えに伴い、千代田区溜池遺跡^{ためいけ}の発掘調査が行われました。今回はこの調査から江戸時代の大名屋敷を中心とした成果をとりあげたいと思います。

I. 溜池の生い立ち

溜池は、江戸時代に現在の虎ノ門から赤坂見附の間、港区赤坂一〜三丁目の北東辺と千代田区永田町二丁目、霞ヶ関三丁目の南部にあった広大な池でした。現在、池の姿はなく外堀通りとなりましたが、

溜池の北にあった日吉山王社^{ひえさんのうしや}は今も山王日枝神社としてあるのでご存知の方も多と思います。

溜池は、江戸時代には江戸城の南西に位置し、周辺の湧水^{ゆうすい}を集め、虎ノ門で堰き留めた人造の池であり、江戸城外堀の一部でもありました。

溜池谷の旧地形は、谷を中心にそこから延びる多数の樹枝状の支谷がたつらなっていました。谷奥は北西の鮫ヶ橋^{さめがはし}の谷(新宿区若葉町)を源流とし、清水谷や赤坂の谷、そして日吉山王社の東にある北方向に切れ込む北岸の谷などが集まり、幅の広い溜池谷を形成していました。その谷筋はやがて日比谷の入江につながっていたと考えられます。

溜池の生い立ちは、このような旧来の地形をうまく活かして開発され、上水や外堀という江戸城下町の構造の一角を担っていました。



1 溜池周辺の地形

千代田区教育委員会 一部改変

今月の表紙

「江戸大絵図」(公益財団法人三井文庫所蔵) 溜池部分拡大

絵図は、明暦「めいれき」の大火(明暦3年:1657)前後の江戸を詳細に描いた彩色図です。右下寄りにある堰「せき」によって池の水は溜り、豊かな水量であった「ため池」の姿を知ることができます。中央には「山王」(日吉山王社^{ひえさんのうしや})の丘が溜池に張り出しています。溜池の水域が、南岸と比べると北岸に複雑に入り込んでいる状況がわかります。

II. 江戸城下町と溜池

溜池は、江戸初期には城下町の南部地域を潤した水源地であったことが、「武州豊島郡江戸庄図」(寛永9・10年：1632・33) (2) に「江戸すいとろノみなかミ」(江戸水道之水上) と記されていることからわかります。やがて玉川上水が承応年間(1652～54)に引かれるとその役目を終えます。

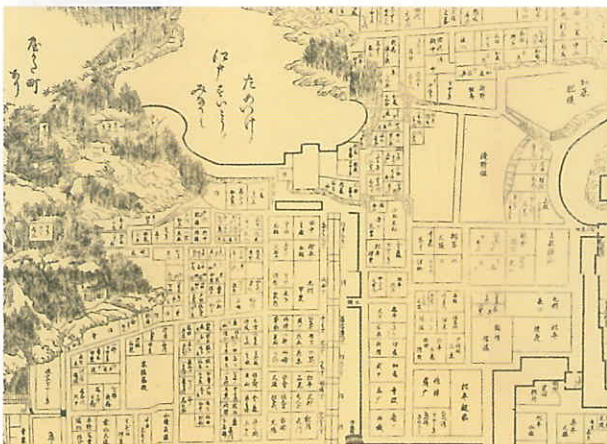
溜池の築造は、慶長11年(1606)紀伊和歌山藩主浅野幸長によるとされますが詳細は不明です。遅くとも寛永13年(1636)には堰が設けられて江戸城外堀の一部になりました(3)。池は江戸時代を通じて幕府によって管理され土砂の浚渫も行われています。

溜池の周囲は、明暦大火以降徐々に埋め立てが進み、屋敷地が拡大していきます。さらに土砂の流入や塵芥の沈殿が進み、田畑や物干し場、火除地や馬

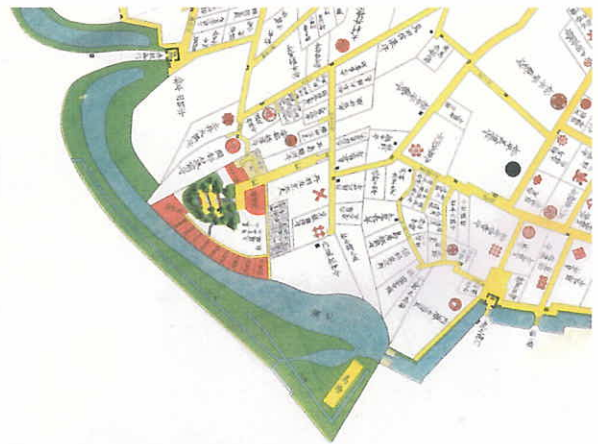
場、植物の植付け(桐畑)などにも利用されました。溜池は、歌川広重の名所江戸百景「赤坂桐畑」「虎の門外あふひ坂」などに描かれているように、江戸期を通じて風光明媚な江戸名所として人々に親しまれました。また、江戸中期には蓮が植えられて繁茂する景観となり屏風絵などに描かれています。

明治時代になると溜池は、明治8・9年(1875・76)頃から水を落とされ干潟となります。「五千分一東京図測量原図」(明治16・17年：1883・84) (5) によれば、溜池は水量が減少して細い流れとなり、その周囲は湿地や荒地になっていることがわかります。明治21年には溜池町が成立し、やがて外堀通りが作られます。

現在は、交差点や地下鉄の駅名に名を残すだけになりました。



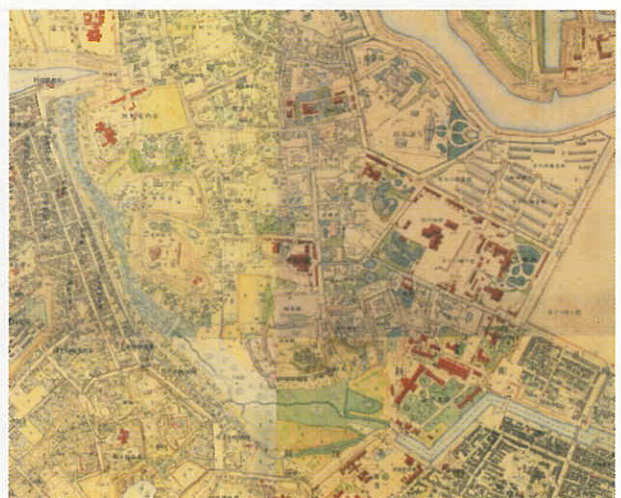
2 武州豊島郡江戸庄図(部分)
寛永9・10年(1632・33)



4 尾張屋板「魏町永田町外桜田絵図」(部分)
嘉永3年(1850)



3 寛永江戸全図(部分)
寛永19・20年(1642・43) 白杵市教育委員会所蔵



5 五千分一東京図測量原図(部分)
明治16・17年(1883・84) 財団法人日本地図センター

Ⅲ. 発掘された溜池遺跡

溜池遺跡の発掘調査は、これまで都合3度行われています。①総理大臣官邸整備に伴う調査（総理大臣官邸地点）、②地下鉄7号線（南北線）建設工事に伴う調査（地下鉄南北線溜池地点）、そして③衆議院第一議員会館建替えに伴う調査です（衆議院議員会館地点）。調査は溜池の中央部を南北に縦断し、溜池の北岸に切れ込む谷の低地の調査です。

この谷は、江戸初期には溜池の水域が北側に入り込んでいることが「寛永江戸全図」(3)や「江戸大絵図」(表紙絵図)に描かれており、明暦大火以降に徐々に埋め立てられ、丹羽家屋敷の拡張や山王社家屋敷となります。

丹羽家屋敷と日吉山王社と社家（禰宜）

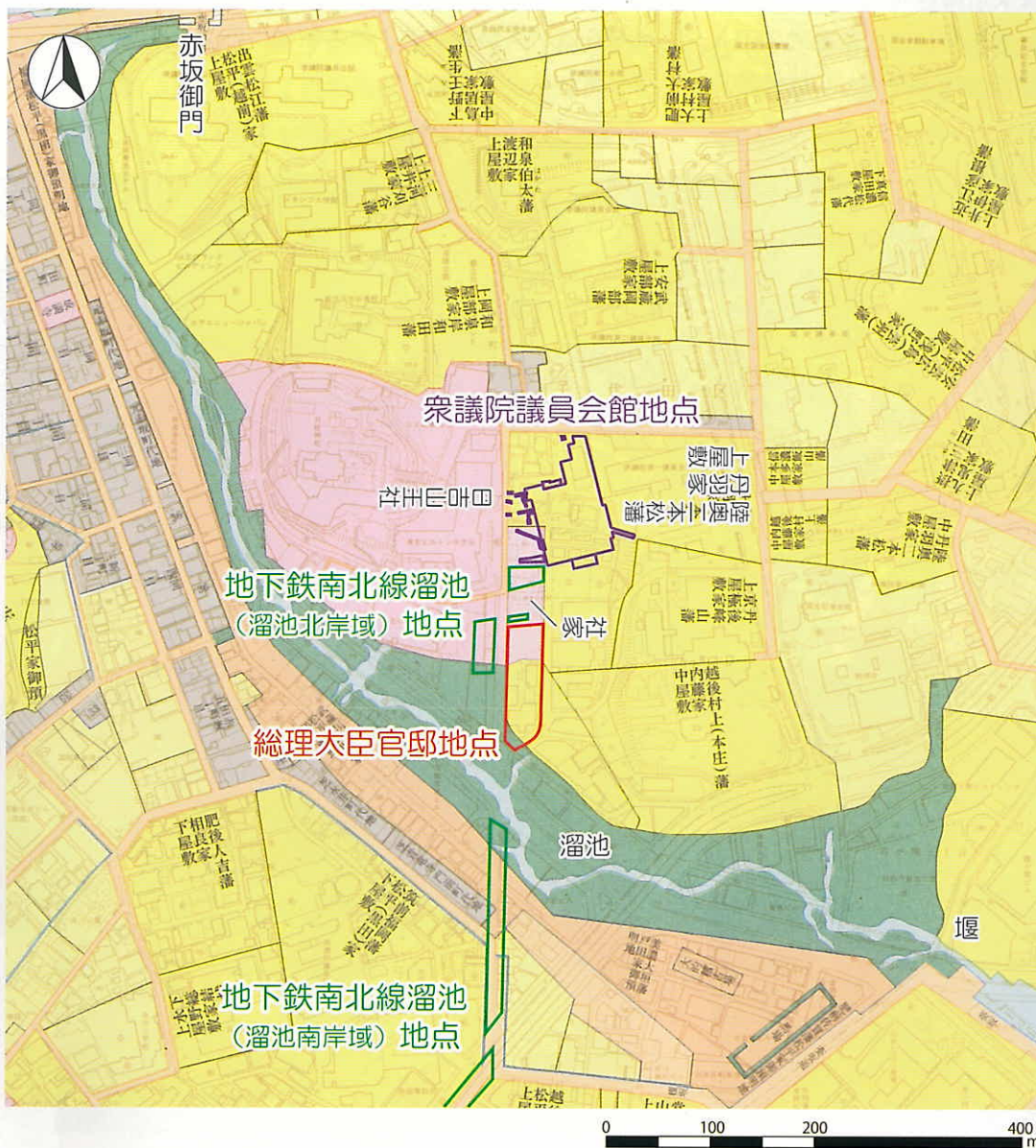
今回の衆議院議員会館地点は、江戸時代には二本松藩丹羽家の上屋敷に該当します。

二本松藩は、居城を二本松（現在の福島県二本松市）に置く、石高10万700石の外様大名です。丹羽家は、織田信長の重臣であった丹羽長秀を家祖とすることで著名です。

調査地点の江戸永田町の屋敷は、寛永10年（1633）に拝領され、以降幕末まで続きます。拝領当初の屋敷地は台地上部だけで、調査地点の谷部はまだ屋敷地として造成されてなく、溜池の水域にな

っていました。屋敷は、明暦年間以降徐々に埋め立てが進み、拡張されていきます(8)。今回の調査地点は、丹羽家屋敷の家臣が居住する長屋地区に該当します。

一方、丹羽家屋敷の西側の谷を挟んで日吉山王社があります。当初の山王社は、城内にありましたが、慶長9年（1604）には城外の麴町隼町に移り、さらに明暦の大火（1657）により社殿を焼失したため、万治2年（1659）赤坂の松平忠房の邸地であつた現在地に移りました。



6 溜池遺跡の調査地点位置図

『江戸復原図』（東京都教育委員会 1989）一部改変

丹羽家屋敷の西側に隣接して山王の社家（禰宜：神官）屋敷があり、総理大臣官邸・地下鉄南北線溜池地点ではこの社家屋敷も調査が行われています。

ここでは溜池遺跡の調査の代表的な遺構を見ることにします。

出土した遺物

溜池遺跡の大きな特徴は、その立地が谷部の湿地地形という点にあります。

このような地理的条件が幸いし、台地上では腐朽しやすい木製品が多量に出土しています。出土した多彩な漆椀は、当時の生活什器のなかで陶磁器とともに漆椀の比重が高かったことを物語っています。また時絵の箱や櫛などは、大名屋敷の生活品の姿を伝えています。このほか、下駄、箸、棕櫚箒、柄杓、搦り粉木、独楽、羽子板、酒樽、荷札、まな板など多種多彩な生活道具が木製であったことがわかります。

あわせて木製品以外の金属や石、骨角などの素材を使った道具（鏡、煙管、鋏、火打ち金、硯、砥石、簪など）の出土から、当時の暮らしぶりをより具体的に知ることができます。

特筆される遺物としては、江戸時代前期（17世紀前半）の埋め立て層から金箔の貼られた瓦が出土しています（25）。金箔瓦は、これまでは安土桃山時代の西日本の城に出土例が多く、江戸からの出土は限られており注目されます。

丹羽家の家紋瓦（直違い紋）（26）の出土から家紋瓦が葺かれた建物の存在がわかります。ほか、江戸歌舞伎のうち江戸三座のひとつ市村座の「切落札」（入場札）（20）、「天下第一」銘が刻印された分銅（棹秤の錘）（24）、丹羽家の預地の区画境を記す「角堺石」なども注目される遺物です（27）。

（斉藤・大八木）



7 調査地点全景（衆議院議員会館地点）
枠線内が調査地点、中央が旧衆議院第一議員会館、右上が国会議事堂



8 埋め立て土層（衆議院議員会館地点）
南東から北東方向を望む



9～11 四棟一連の蔵基礎

基礎石確認状態 (9)

基礎石除去後の土台木確認状態 (10)

蔵基礎の角石積みの状態 本来はほとんどが土中にある (11)

12 屋敷境石垣

間知石の布積み 緑色凝灰岩のなかに黒色の安山岩が混ざる

13 屋敷境石垣

間知石と丸石（礎石などの転用石） 確認された長さは約 60 m

14 厠（雪隠）遺構

写真右手が厠の床板

15 桶基礎建物跡

樽地業と呼ばれる軟弱地盤での土蔵の基礎構造

出典

9～13・16～26：衆議院議員会館地点（東京都埋蔵文化財センター 2011）

14・15・27：総理大臣官邸地点（都内遺跡調査会永田町二丁目目内調査団 1996）



16 湿地の水分で保護され、鮮やかな光沢を保ったまま遺跡から出土した



16|17 向梅橘文蒔絵箱蓋 黑色漆地に金銀蒔絵で飾る 文箱か

17



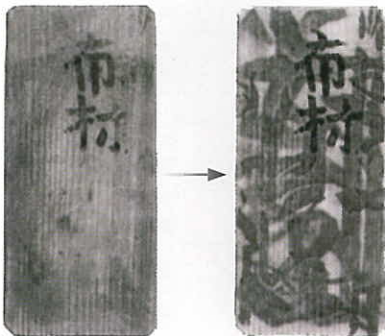
18 梅鉢唐草文蒔絵櫛 赤色漆地に金蒔絵と黒色漆で文様を飾る



19 渦唐草文蒔絵櫛 黒色漆地に金蒔絵で文様を飾る

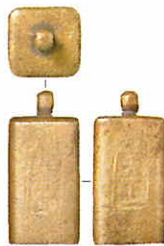


25 金箔瓦 (三巴紋軒丸瓦)



【赤外線透過写真】 【画像処理後】

20 市村座の「切落札」(入場札) 「市村」の焼印と全面に墨書 処理後は「切落」の文字が浮かびあがる



24 分銅 「天下一」「一得+(花押)」の刻印



26 軒丸瓦 (直違い紋) 丹羽家家紋



21

21 酒樽 把手がスライドしてはずせる構造



22

22 羽子板 長さ 37cm 一部に模様が残る



23 棕櫚箒

四
東塚角名ヨリ
六間一尺五寸
西御預地塚石迄



27 「角塚石」

発掘された日本列島 2012 地域展示 が開催されます！



地域展示：「溜池遺跡にみる江戸・東京」
 開催日：平成24年6月12日(火)～7月29日(日)
 休館日：月曜日(ただし7月16日は開館、翌17日が休館)
 場所：江戸東京博物館 常設展示室5階第2企画展示室前

「発掘された日本列島2012」展の開催に合わせて、江戸東京博物館では、地域展示「溜池遺跡にみる江戸・東京」も開催しております。今年度の地域展示は当埋蔵文化財センターが発掘調査をした江戸遺跡を中心に展示し、紹介しております。皆さまのご来場をお待ちしております。

【関連イベント】

- ◎スペシャルトーク(後藤藤樹氏[千代田区日比谷図書館学芸員])
 - ・日時：6/23(土)・24(日) 12時～、14時～
- ◎ミュージアムトーク(当センター職員による地域展みどころ解説)
 - ・日時：7/13(金)・20(金) 16時～(30分程度)

夏期の行事のご案内

行事名	対象者 / 人数	開催日	時間	申込方法
第1回文化財講演会 「サケ資源と縄文戦略」 講師：館野孝(当センター調査研究員)	一般 120名	7月7日(土)	13:30～15:30	当日受付 先着順
親子縄文土器作り教室(2)	親子15組 (小学3年生以上)	制作：7月21日(土) 野焼き：8月25日(土)	9:30～16:00 9:30～13:30	往復はがきにて申込み 締切：7月7日(土)
親子縄文土器作り教室(3)	親子15組 (小学3年生以上)	制作：7月22日(日) 野焼き：8月25日(土)	9:30～16:00 9:30～13:30	往復はがきにて申込み 締切：7月8日(日)
*野焼きの見学は、ご自由に参加できます(受付不要)				
親子古代糸作り教室(2)	親子15組	7月25日(水)	9:30～16:00	往復はがきにて申込み 締切：7月11日(水)
古代の布作り教室 (1)午前の部・(2)午後の部	各回とも一般30名	7月26日(木)	(1)9:30～11:30 (2)13:30～15:30	往復はがきにて申込み 締切：7月12日(木)
トンボ玉作り教室(1)	各時間とも4名	7月28日(土)	10:00～/11:00～/ 12:00～/13:00～/ 14:00～	往復はがきにて申込み (第3希望まで時間記入) 締切：7月14日(土)
親子縄文アクセサリー教室 (2)午前の部・(3)午後の部	各回とも親子15組	8月2日(木)	(2)9:30～11:30 (3)13:30～15:30	往復はがきにて申込み 締切：7月19日(木)
親子火おこし体験 (1)午前の部・(2)午後の部	各回とも親子15組	8月4日(土)	(1)9:30～11:30 (2)13:30～15:30	往復はがきにて申込み 締切：7月21日(土)
親子縄文アクセサリー教室 (4)午前の部・(5)午後の部	各回とも親子15組	8月11日(土)	(4)9:30～11:30 (5)13:30～15:30	往復はがきにて申込み 締切：7月28日(土)
トンボ玉作り教室(2)	各時間とも4名	8月18日(土)	10:00～/11:00～/ 12:00～/13:00～/ 14:00～	往復はがきにて申込み (第3希望まで時間記入) 締切：8月4日(土)
考古学相談室	小・中学生・一般	通年 (土日祝日は除く)	10:00～16:00	受付随時
火おこしマイスターになろう!	小・中学生・一般	7月2日～ (土日祝日は除く)	9:30～17:00	受付随時 (受付は16:00まで)

往復はがきでのお申し込みは、住所・氏名・電話番号をご記入のうえ、東京都埋蔵文化財センター広報企画係まで

「たまのよこやま」の由来 万葉集巻二十之四四一七の防人となった夫の旅立ちに備えて、山野で馬に草を食べさせていたところ、馬は逃げてしまった。やむなく徒歩で多摩丘陵を越えることになってしまった夫を見送る妻の嘆きを詠った「赤駒を山野に放し 捕りかにて 多摩の横山 徒歩ゆか遣らむ」(宇治部黒女)を由来としています。



たまのよこやま 89 2012年6月8日発行
 東京都埋蔵文化財センター 〒206-0033 多摩市落合1-14-2 TEL 042-373-5296 <http://www.tef.or.jp/maibun/>